

東広島医療センター 腎臓内科 湯浅 拓哉

東広島医療センター腎臓内科レジデントの湯浅拓哉と申します。テーマは自由と何ってありますので、私の大好きな『テイルズ オブ ジ アビス』というRPGについて語ろうと思います。テイルズシリーズの10周年記念作品である本作は戦闘の爽快さもさることながら、そのシリアスで重厚なストーリーがなによりの魅力です。

主人公であるルークは、とある大国の公爵家の一人息子であり、7年前以前の記憶を持ちません。敵国に誘拐されたショックで記憶がなくなったと説明されます。それ以後は、親の過保護のため公爵家の広い敷地の中で軟禁のような状態で少年、青年期を過ごすことになります。甘やかされて育ったこともあり、序盤の彼は自己中心的な性格として描かれます。軟禁状態に飽き飽きしているルークの唯一の楽しみは、師匠であるヴァンとの剣術修行でした。彼は偉大な師匠を心の底から信じていたのですが、ヴァンは彼を道具としてしか見ていなかったということが明らかになります。

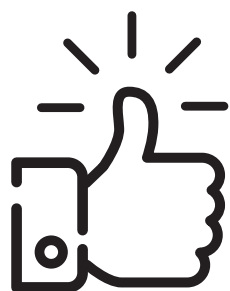
この世界は過去に与えられた預言の通りに物事を進めることが良しとされる世界でした。なぜなら、その預言の最後には人類の繁栄が記されていたからです。ヴァンの故郷は戦争の惨禍に見舞われ、壊滅的な被害を受けました。実はそのことも預言には示されていたのです。しかし、預言を管理している者たちは預言に従うことこそ正しいと考えていたので、ヴァンの故郷を見捨てる選択をしました。それが許せなかったヴァンは、「レプリカ」という現代でいうクローンのような存在を生み出すことにしました。

「レプリカ」であれば預言の中に組み込まれていない存在のため、預言を覆せると考えたからです。

本作の主人公であるルークが7年前以前の記憶を持っていないのは、彼が作り出された「レプリカ」だったからなのです。オリジナルのルークには、とある貴重な素質がありました。その素質を使うために彼は作り出され、そしてヴァンに騙される形でその能力を使い、結果として街一つを滅ぼしてしまうことになります。ルークは当然そんなことをするつもりはありませんでしたが、仲間と思っていた誰もが彼を非難しました。しかし、彼を見捨てなかった仲間が一人だけいてくれました。それからの彼は、少しずつでも償いをしようと変わっていきます。元来は目的のために作られたルークですが、その後は自らの意思で運命を切り開きます。屋敷の中で甘やかされて育ち、ヴァンの言いなりになって過ちを犯してしまった彼は、確かに操り人形という意味で「レプリカ」だったのかもしれませんが。

しかし、その後自らの意思で立ち上がり、自らの価値を勝ち取った彼はもう元ルークのレプリカなんかではなく、オリジナルになっていました。

この文章の本来の目的は、こんなに面白いゲームがあるからやってほしいという布教ですが、失敗しても立ち上がる姿がかっこいいというのは現実世界でも同じだと思います。以上、お目汚し失礼いたしました。



Facebook更新中!

もみじ医が広島県医師会などのイベント情報をお知らせしています。
フォローして最新情報をチェックしましょう。

